

●三位一体後第二主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第三十四編」

味わい、見よ、主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、

御もとに身を寄せる人は。



## 救うために来た

主は群衆に叫びました。「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしを遣わされた方を信じるのである。わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることのないように、わたしは光として世に来た」と。神に選ばれ、神を信じる民である自分たちに「光を信じなさい」と語られる主のことに民は聞く耳を持ちませんでした。なお、主は「わたしのことを聞いて、それを守らない者がいても、わたしはその者を裁かない。わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために来たからである」と語られたのです。裁くためではないと。すなわち、恐れずに光のところに来なさいということです。

創世記3章では禁断の実を食べた人が「善悪を知るようになって」と伝えていきます。また「裸を隠した」とも伝えていきます。「裸を隠した」とは単に体の裸を隠したことを伝えているのではなく、神の前で自分自身を隠す者になったことを表しているのです。神が「よし」とされた自分の裸を自分の善悪で、「悪い」と見ていたのです。以前はすべてがあからさまでした。何一つ隠すことなく、木の後ろへ隠れることもありませんでした。

更に神から「食べたのか」と問われ、その事実を素直に表すことを恐れていました。都合の悪い事実を隠すようになったのです。深刻なのは神の前でそれを隠している自覚がないことです。むしろ「あなたがくださったこの女がくれたので、食べました」と言い、食べたという素直な真実を見ず、反対に隣人が隠したいことをあらわにして、自分の正義を主張するものとなったのです。のように「自分の善悪」に捕らわれている人の心は自分が光であつて、もはや神が光でなくなつたのでした。神はそのような人間の闇に気づかせるために、人に「律法」を与えられたのです。

ところで、主は律法ではなく「わたしの言葉」を聞いて、それを守らない者がいても、その者を裁かないとお語りになりました。主のことは律法を更に厳しく示されたのです。「律法は人を殺すなと命じている。だが、わたしは言う。人を愚か者、ばか

言う者も最高法院、火の地獄」と戒めておられるのです。「律法は姦淫するなど命じている。だが、わたしは言う。他人の女を見て情欲を抱く人は、すでに姦淫をしたのである」と。神の律法を表向きには受け止め、守っているつもりでいる人たちに、本来、律法が気づかせようとしていることを、ダイレクトに語られたのでした。すなわち、あなたの「内側」を見るようにと。外側はきれいでも、本当の自分、その内側は隠しているではないか、神の教えを偽善に守っているではないか、と語られたのです。それを見るようにと。

律法そのものからは、隠れる道を見つけ出してきたかもしませんが、この主イエスのことばからは隠れられない、逃げられない。主のことばからはどんなに自己弁明をし、自分を白く塗り、白く着飾っても、無駄、自分を隠しても無駄なのです。救われ得ない自分自身が突きつけられるのです。しかし、それこそ、人への招きのことば、福音です。守らない者がいてもその者を裁かないと語られました。救われ得ない現実を律法より、更に明白に照らし、木の後ろから出てくるように、恐れず裸のまま出てくるようにと呼びかけられたことでした。

律法が与えられ、主が律法の意図を更に明確に示されたのは究極的には木の後ろから出て、闇の中に自らを隠すのではなく、光のほうへ進み出るようにということです。そこに人の救いがあります。

私たちは神の御前を生きています。神の御前、いつも自分自身を真実に表すことにおいては、一切のためらいがあつてはなりません。惨めでも恥ずかしい姿でも、裸のまま、木の後ろから出てくる。その闇の世界から出てくる。それに何のためらいのない、信仰が常になくはなりません。神ご自身をそのように真実に求めてくる者たちに、神ははじめから用意された神の安息に、永遠のいのちの世界に与らせてくださいます。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

○ 礼拝後、特別な集会はありません。

《ぶどうの会より》

○ 礼拝後、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《ロビーの会より》

○ 礼拝後、ロビーでコーヒーの販売を行います。  
お菓子付きで値段は七〇円です。お手持ちのコーヒーサービス券もご使用いただけます。どうぞお買い求めください。

《今後の予定》

○ 六月一四日 附属幼稚園おゆうぎ会  
○ 六月一六日 定例役員会

《教会事務所より》

○ コロナ禍以降、地下ホールで行われていたミヤンマー教会の礼拝は、本日から従来使用してきた幼稚園棟二階のリズム室で行うこととなりました。礼拝の開始時刻は一一時です。  
今後とも、ミヤンマー教会の方々と連携しつつ、彼らの活動を支えていきたいと思えます。

# 《ジュネーブ教会信仰問答》

第七聖日前半

使徒信条「イエス・キリストを信ず」に関して

問四六 神はわれわれすべてを彼の子とお呼びになるのに、なぜあなたは彼を神の独り子と仰いのですか。

答 われわれが神の子であるのは、生まれながらではありません。ただ子とされることにより、また恵みによるのであって、神がわれわれをかく見なそうとされるかぎりにおいてであります。

しかし、主イエスは父ご自身から生まれ、同じ本質をもつておられて、正当に独り子と呼ばれるのであります。生まれながらにして子であるものは、彼ひとりのほかにはないからであります。

問四七 あなたのいわんとするところは、この榮譽は彼にのみふさわしく、また自然に彼に帰属するけれども、われわれは彼の肢体であるかぎり、無償の賜物としてそれがわれわれに与えられるというのですね。

答 その通りであります。そしてこの交わりに関して、他の個所に、彼は多くの兄弟のうちの長子といわれております。

問四八

その次のところはどんな意味ですか。神のみ子が、われわれにとつて救い主となるために、父から油を注がれなされたことを明言しております。すなわち、われわれの人間の肉をとり、ここに暗誦めいじゆされているように、われわれの贖罪に必要なものもろのものを果たされることによつてであります。

問四九

聖霊によりてやどり、処女マリアより生れ、との二つの言葉はどんな意味ですか。

答 彼は預言せられていたようにダビデの孫となるために、処女マリアの胎内で、彼女の固有の物質をもつて形造られなさいました。しかしながらそれは、男の結合なしに、聖霊の奇しき働きによつてなされたのであります。

外山八郎訳（新教出版社1979年）使用

# 《今日の子ども礼拝》

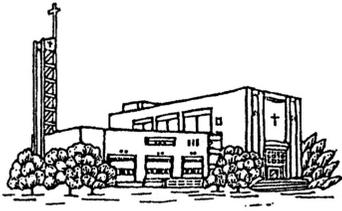
説教 「祝福してくださるまでは離しません」  
聖書 創世記32章23〜32節  
説教者 宮間彰広兄

# 《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）  
説教 「夢見る人ヨセフ」  
聖書 創世記37章1〜11節  
説教者 吉村和雄 名譽牧師

●主日礼拝（午前10時30分）  
讚美歌 74番 336番  
説教 「自分のものだと言う者はなく」  
聖書 使徒4章32〜37節  
説教者 宮間彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 495番 279番  
説教 「彼らを愛し抜かれた」  
聖書 ヨハネ13章1節～20節(新約 P.194)  
司式 石川一兄  
聖餐司式 黄允湜 牧師  
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 J.S.バッハ

### ○讃美歌495番

1. イエスよ この身を ゆかせたまえ

愛のしたたる 十字架をさして

※(くりかえし)

我はほこらん ただ十字架を

天ついでいに入るときまで

2. 十字架にすがる よわきわれは

今ぞ知りぬる ふかきめぐみ ※

3. 十字架のうえによろこびあり

たえず御蔭に よらせたまえ ※

4. かがやく国に のぼる日まで

十字架のもとに 立ちてぞ待たん アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「全能なる永遠の主よ」 O.ギボンズ 作曲

全能なる永遠 (とわ) の主よ

われらの弱きを顧み

危うきと災いより

み手をもて救い給え

み名によりて

アーメン

### ○讃美歌279番

1. 世のほこる 知恵とさとの

頼りがたきを 知らしめたまえ

月かげの 青きより澄みて

わが魂に そそがせたまえ

まことのひかり

2. 世のしたう 愛となさけの

移り易きを さとらせたまえ

あかつきの ひかりより清く

わが魂に みたしめたまえ

とこしえの愛

3. 主にありて 生くるわが身の

きよき喜び うたわせたまえ

真理 愛 いのちも望みも

主よりいずれば あおがせたまえ

イエス・キリストを

アーメン

聖餐曲「きよけき心を」 G.バーム

後奏曲「我、心より汝を愛す」 J.G.ガアルター